ベストクラス選定理由書

作成者：細川陵，三方怜，八木寛人，鎌田寿晃，古田和士，筒井茂喜，藤井良憲

| | |
|---|---|
| 科目名称：初等音楽科教育法（大学院クラス）<br>（担当教員名：　河邊　昭子　） | |
| 課　　程：学部（大学院クラス） | 開講時期：前期 |
| 授業形態：講義・演習 | 授業規模：３０人以下 |
| インタビュー対象教員名　　河邊　昭子<br>（実施日時：令和５年９月５日（火）　10:40～11:35　；　実施場所：芸術棟多目的室（101 教室）） | |
| インタビュー対象受講者名　　坂尾駿介さん，堀川太慧さん，大江敬久さん<br>（実施日時：令和５年９月５日（火）　10:40～11:35　；　実施場所：芸術棟多目的室（101 教室）） | |

選定理由

【選定理由】

授業評価アンケートの評価項目の平均値が 3.85 と高く，受講者のコメントから，本学大学院入学までピアノが未経験であった学生の苦手意識の払拭する一方で，音楽における楽しさを感じさせ，小学校教員としての指導力を的確に身に付けることが可能な授業内容であると評価されていたことから，本授業科目をベストクラスとした。

【担当教員に対するインタビューより】

・高校で音楽を選択していなかった学生は，高校と大学の計７年間音楽実技から離れており，その不安を解消できるよう，学生自身が実技の練習を通して，少しずつ上達する手応えを感じることで，教員として，学習者の立場に立った指導のあり方が考えられるよう授業で配慮されていた。

・実技指導については，各授業回のシラバスにおける主たるテーマとなっていなくとも，短時間でも必ず実技練習の時間を各授業回で設定されていた。

・学生全員が１つの楽譜を完璧にピアノで弾くことを目指すのではなく，課題の楽譜や実技習得のレベルなど，自己の到達点を自身で選択し，自分が持つ実技力で授業として成立するパフォーマンスを心掛けるよう学生に伝えておられ，実際の授業で使える実技力を身に付け，子どもと一緒に音楽活動を楽しんで出来る先生になって貰いたいとの思いを持っておられた。

・各授業回において，実技の練習をする学生個人の様子（表情や集中度等）や成長の把握に注力され，出来ていない箇所をピアノレッスンのように指導するのではなく，学生個人に応じたタイミングや方法で適切に指導をされておられた。

・子どもの実技における各習得段階について，到達度や到達方法は個人によって異なるため，子ども自身に現状や変化をしっかり認識させ，上達への見通しを持たせることが大切で，現在は，一律の基準で子どもの実技力を評価する時代ではなく，本授業を通じて，学生がこれまで受けてきた音楽に対する授業観を転換して貰いたいとの思いを持っておられた。

【受講生に対するインタビューより】

・実技教科に関しては，技術の部分があるものの，やって楽しかったとかやって良かったという部分を大切に感じておられた。自身がこれは良かったと思える授業の展開が出来れば，それは

良い授業になり，子ども達もこの先生は良かった，本当にこの授業は楽しかったと思って貰えることを授業の目標にされていた。また，授業を行う際，子どものやりたい事や発言した事を絶対に否定しないよう留意したいと考えておられた。

・本授業を受け，音楽を学ぶことの大切さについて理解出来て良かったとの話があった。音楽が出来ない人の気持ちの理解を踏まえつつ，多くの子ども達に出来るだけ様々な楽器に触れる機会を作ることで，新たな発見があり，楽しいと思って貰えるような授業づくりをしたいと考えておられた。

・音楽が出来る子だけがすごくて，出来ない子はだめという概念を授業で無くしたい，出来ることがすごいと思っていたが，その中で出来ない子にも良さがあることに本授業で気付かされたとの話があった。褒める事がとても大切で，自身が音楽で褒めて貰った経験が無いため，授業の中で子ども達の小さな成長を褒める機会を多く設けたいと考えておられた。

【まとめ】

以上から，本授業科目は，小学校の教員を目指す大学院学生が，音楽の苦手意識を楽しさに転換し，実際の授業で使える自己に応じた実技力を身に付けられるよう，各授業回の実技練習におけるスモールステップと自身の個人内評価が大切にされており，河邊先生が，その個人内評価を支えるしっかりとした各学生の観察と個に寄り添った丁寧な指導をされていることから，ベストクラスとして推薦に値すると判断した。